

ユニセフ T・NET 通信

2013 WINTER

No.53

公益財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034

Email: se-jcu@unicef.or.jp ホームページ <http://www.unicef.or.jp>

募金口座▶郵便振替: 00190-5-31000 (公財)日本ユニセフ協会 (送金手数料免除 ※窓口振込のみ)

アフリカ干ばつ ユニセフ支援報告

命の危機に晒されるアフリカの子どもたち

—昨年、ソマリアをはじめ「アフリカの角」と呼ばれるアフリカ東部を襲った過去60年間で最悪の大干ばつは、アフリカ中・西部のサヘル地域に拡大し、9カ国、1800万人を巻き込む大規模な食糧難を引き起こしました。広大なサハラ砂漠に接し、アフリカ大陸の東西に伸びるサヘル



地域。雨が不足し収穫が減り、家畜が死に食べ物が尽き、食糧価格も高騰しました。その状況の中、400万人を超える幼い子どもたちが空腹に苦しみ、うち110万人以上が重度の栄養不良や劣悪な環境の中で命の危機に晒されましたが、ユニセフの支援活動により、約85万人の子どもたちが命を繋ぎとめました。しかし、栄養不良状態に陥った子どもたちには、今後も継続的な治療・ケアが必要とされています。

それらの地域の子子どもたちが置かれた厳しい現状と、子どもたちの命を守るためのユニセフの活動についてご報告します。

©UNICEF/Somalia2011/Mony

干ばつの被害に苦しむソマリアの子ども

◆◆干ばつが奪うアフリカの子どもたちの生存と未来◆◆

干ばつに見舞われたサヘル地域の子子どもたちは、貧困が原因で以前から慢性的な栄養不良に苦しんでおり、昨年の干ばつによって、さらに危険な状態に追い込まれました。サヘル地域では、根底にある不健康な環境や保健ケアへのアクセスがないなどの要因が、食糧不足の影響に輪をかけました。5歳未満児死亡率は、適切な栄養を摂取できれば削減することができます。この地域の出生数は世界全体の4分の1にもかかわらず、子ども全体の死亡数は世界のほぼ半数を占めています。ユニセフの2011年のプログラム支出の半分以上は、「乳幼児の生存と発達」を実現させるための取り組みに使用されています。そして、

その支出の57%が、後発開発途上国の大半を抱えるサヘル地域に充てられています。

◆◆栄養不良が子どもたちに及ぼす影響◆◆

充分な量と質の食糧がなければ、子どもたち、特に5歳未満の子子どもたちは命にも関わる栄養不良に陥り、それに関連した健康障害をも引き起こす可能性があります。急性の栄養不良(緊急な要因で起きる低栄養)、特に重度の栄養不良は、死亡につながるが多くなります。深刻な栄養不良の子子どもが感染症で命を落とす確率は、通常の状態の9倍も高くなります。栄養不良の子子どもたちは、免疫機能が弱く、感染症にかかり易くなるのです。そして、感染症は子どもの栄養状態を低下させ、栄養

不良と疾病の悪循環が起きます。

また栄養不良は、それ自体、命を脅かすものですが、子どもたちが下痢性疾患や皮膚感染症、呼吸器感染症といった疾患に陥るリスクを高める要因でもあります。

◆◆子どもたちを襲うさらなる悲劇◆◆

そして、ニジェール川流域など各地で広がり始めたコレラが、栄養不良で衰弱した子どもたちに追い討ちをかけました。コレラは、サヘル地域で周期的に流行しています。しかし昨年は、マリ北部での紛争により避難を余儀なくされた人々が広範囲にわたり避難してきたため、状況はさらに悪化しました。栄養不良のために既に衰弱している子どもは、コレラで命を落とす深刻な脅威に晒されます。栄養不良の治療を受けたとしても、汚染された水を利用して、すぐにまた病気に陥ってしまうのです。

また、食糧不足と栄養不良は子どもたちの教育にも大きな影

響を及ぼします。食べ物が充分にない状況では、教育はどうしても後回しになってしまいます。学校への通学がままならない状況が長く続くと、子どもたちの学習能力や発達全体が阻害され、貧困の悪循環を断つのに大切な、将来的な雇用にさえも影響が出ることになります。

◆◆ユニセフの支援活動◆◆

ユニセフは、命にかかわる栄養不良の子どもたちへの救命治療を最優先で進める一方、コレラの感染拡大を防ぐための浄水剤の配付、治療用テントの設置、マラリア予防用の蚊帳の配布などと共に、難民キャンプに避難してきた子どもたちのために臨時学級を開設したりするなど教育面を含め、新たに必要となった支援を全力で行っています。ユニセフは、以下の分野で重点的に活動しています。

◆◆ユニセフの活動分野別の支援事例◆◆

水と衛生

安全な飲み水の供給／浄水剤、貯水器、バケツが入った家庭用水キットの配付／トイレの設置／給水施設の設置／手洗いなど衛生知識の普及



©UNICEF/NYHQ2011-1353/Najwa Mekki
水不足のなか、汚れた水が原因で下痢性の病気が急増。安全な飲み水の提供は、ユニセフの重要な活動のひとつです

栄養

栄養治療センターの運営／栄養補助食の提供／被災地域での食糧支援／ビタミンAの投与／保健員による栄養指導／完全母乳育児の普及



©UNICEF/NYHQ2012-0180/Asslin
栄養不良と診断され、栄養補助食(プランビーナッツ)で栄養を摂る女の子。アフリカには栄養支援が必要な子どもたちがまだ大勢います

保健

保健キット、医薬品の提供／保健センターの運営／予防接種の実施／マラリア予防用の蚊帳の配布／被災地域への医療チームの派遣／保健員の育成



©UNICEF/NYHQ2011-1209/Siegfried Modola
はしかの予防接種を受ける子ども。感染症にかからないように身体に抵抗力をつけるビタミンAも投与します

教育

「スクールインアボックス」の提供／テント学級や臨時学級の開設／教材の提供／学校での保健・衛生指導／教員の育成



©UNICEF/NYHQ2011-1268/Christine Nesbitt
木の下で青空学校で勉強する子どもたち。干ばつなど緊急事態の中でも、子どもたちを守り、未来をひらく学校は欠かせません。ユニセフは、子どもたちの栄養不良を改善するために学校給食も支援しています

2012年にサヘル地域で実施されたユニセフ支援活動の例

- ◆約4,700箇所以上の栄養治療センターで、重度の栄養不良の乳幼児73万人以上に栄養治療を行いました。
- ◆190万人以上の乳幼児にはしかの予防接種を実施しました。
- ◆水不足の村々やコレラの流行が心配される避難民キャンプで28万人以上に安全な飲料水を届けました。
- ◆蚊を媒介としたマラリアを予防するための殺虫処理済みの蚊帳を、730万世帯以上の家庭に配布しました。

ユニセフは、今、危機に瀕している命を守る緊急支援とともに、何度も繰り返される干ばつ等の被害に対し、保健や公衆衛生、子どもの保護の各分野のシステムづくりに取り組み、長期的にこの地域の人々が自立して生きていくための支援を実施しています。

アフリカ干ばつ 緊急募金

日本ユニセフ協会では、アフリカ干ばつ緊急募金を受け付けています。アフリカの子どもたちが平和な日常を取り戻せるように、みなさまからのあたたかいご支援をよろしく願っています。

郵便局(ゆうちょ銀行)振替口座: **00190-5-31000**
口座名義: **公益財団法人 日本ユニセフ協会**
通信欄に「アフリカ干ばつ」とご明記ください。
※送金手数料は免除されます。